令和６年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号０２　豊玉中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・全国学力学習状況調査の結果では、平均正答率 61%で全国平均より 2%高い。ほとんどの設問に関しても全国平均より上回っているが、唯一、「書くこと」に関しては、全国平均より 0.2%低い。 ・全国学力学習状況の意識調査で、「国語の勉強は好きですか」という質問に対し、「好き」「どちらかといえば好き」という肯定的な回答が 79.4%と全国平均 64.3%を上回っている。また、授業の内容がわかるかという質問に肯定的な回答が 87.7%と、学習に意欲的に取り組み、学習内容もわかる生徒が多い。しかし、実際には、設問１５問中、正答が５問以下の生徒が 16.4%いる。	・「書く」機会を増やし、書いた文章をお互いに推敲し合い、批評する時間を確保する。 ・誰もが授業内容を理解できるよう、グループ学習を活用し、生徒同士が意見交換したり、教えあったりする機会を増やす。また、ホワイトボードや ICT 機器を活用してグループ学習を効果的に行う。 ・調査の結果、高得点だった生徒へは思考力を求める学習へと高め、低得点だった生徒へは、学習のポイントや授業の流れがより明確にわかるような手助けをし、個に合わせて学習をすすめる。 ・全員がわかる授業が必要である。
社会	・授業のワークシートや定期考査の結果から思考・判断・表現の観点に苦手意識が強い生徒が多い。そのため、深い学びにつなげることが難しい。知識を得ることができるが、その知識を活用できる発想につなげることが難しいと考えられる。 ・試験や小テストの前に知識のみを習得しようしている。その知識を活かし、自ら疑問をもって学ぼうとする意欲が少ない。	・学習課題の見直しを行う。習得した知識を活用した協働学習を設定し、活動では大型ホワイトボードを活用し、より活発な話合い活動を展開する。また、評価の場面ではルーブリック評価を活用し、適切なフィードバックを行っていく。 ・生徒自身が関心をもち、自ら取り組むよう、教材や学習課題を見直す。学習課題を知識・技能の定着だけでなく、それぞれの関心や習熟度に合わせてワークシート等の学習課題を選択できるよう計画する。
数学	・全国学力学習状況調査の結果では、平均正答率 57%で全国平均より 4.5%高い。ほとんどの設問に関しても全国平均より上回っているが、「式やグラフを用いて説明する」問いと「グラフの傾きや交点の意味を事象に則して解釈する」問いが全国平均を下回っている。 ・全国学力学習状況の意識調査で「数学の勉強は好きですか」という質問に対し、「好き」という肯定的な回答が 31.5%と全国平均 29.4%より 2.1%上回っている。しかし、「数学の授業で学習したことが、将来役に立つか」という問いや「普段の生活で活かせるか」という問いが全国平均を下回っている。	・「関数」の授業を強化し、ともなって変化する２つの数量の特徴を、グラフから分析する授業内容を積極的に取り入れていく。 ・自分の考えを説明する機会を増やす。グループ学習やホワイトボードを活用して対話型の授業展開を中心に行う。 ・日常生活に関連する問題を取り入れ、数学が日常の様々な場面で活用されていることを意識付けさせる。また、論理的思考力を高めることにより、将来役に立つことを感じさせた上で、証明問題等に取り組ませる。授業で学んだことと普段の生活の関連性をもたせることが必要である。
理科	・定期考査等の結果から、知識や技能の定着が不十分な部分があった。そのため、論理的な説明ができなかったり苦手としていたりする生徒がいる。 ・実験などの実習には積極的な反面、結果が理論と繋がらず、書き方に不安を覚え、考察を書くことに苦手意識を感じている生徒がいる。	・「e-ライブラリ」などの学習コンテンツや問題集なども利用しながら、ドリル的な要素を取り入れ、知識や技能の定着を図る。 ・論理的な説明や思考を促すワークシート等の工夫をするとともに、自分の考えを他者に伝える活動の場面を意図的に増やしていき、表現力をつけさせる。
音楽	・音楽用語や諸記号など、苦手意識をもっている生徒がいる。 ・鑑賞などでは落ち着いて授業に取り組んで、学習内容を理解しようと努力している。 ・発問に対し積極的に答えるなど、音楽の授業に意欲的な生徒がいる。 ・歌唱において、まわりを意識せず自信をもって声を出すことのできる生徒が少ない。	・一人一人が主体的に考え、学習を深められるようなワークシートの工夫をする。 ・毎時間、導入時に基礎知識となる諸記号を意識させる授業の始め方を工夫する。 ・表現の工夫や感受の過程など、生徒が考える過程において、個人、４人組、パート別、そして全体で共有し、まとめられるようにする。 ・表現活動（歌唱・器楽）が苦手な生徒への個人指導を行う。 ・技術面だけでなく、自信をもって取り組めるよう指導の工夫を図る。

美術	・作品制作において、自分なりに主題を生み出して発想を広げ、構想を練ることに自信をもてない生徒がいる。 ・長期間の取り組みで完成させる作品制作では、制作意欲を維持し続けられない生徒がいる。 ・鑑賞では、作品について感じたことや思ったことをうまく言葉で表現できない生徒がいる。	・ワークシートを工夫し、自身の体験の中から主題を見付けることができるようにする。また、グループで相互に作品構想やプレゼンテーションをしたり、意見を出し合ったりしながら、構想を更に練るなどの工夫をする。 ・作品制作の中で個別にアドバイスや短期目標を与え、創作意欲を高める。 ・鑑賞の時間では、グループでの話合い活動を多く取り入れ、自分の思いや考えを言葉に表す力を伸ばしていく。
保健体育	・授業に対する目的意識が低く、見通しをもって取り組めない生徒もいる。 ・学習カードでの毎授業の振り返りの中で、自身の課題解決をするための工夫が不十分である。 ・話合いが深まらず、一部の生徒の意見に偏ってしまう。	・単元や授業の導入において、分かりやすい説明をし、ねらいを可視化することや、学習カードの改善を図る。 ・学習カードで授業の振り返りを書かせ、グループでの話し合いにより、課題解決するための工夫をさせる。 ・学習における発問を工夫し、チームの状況を分析させることにより、話し合いを活発にさせていく。
技術・家庭	・技術・家庭は基礎的な知識や技術を習得するだけではなく、自ら考えたり、新たな課題等を見付けたりする力が求められる。そのような思考や課題発見等について、積極的に取り組めない生徒がいる。 ・製作において、完成させるための見通しをたてることに苦手意識のある生徒もいる。	・ワークシートの工夫や活用を行い、課題を見付ける。グループで意見を交換し、自分の考えをまとめることで、問題解決能力を身に付ける取組を意図的・計画的に行っていく。 ・製作前に授業の目標をたてさせたり、振り返る時間を設けたりすることで見通しをもたせる。
外国語（英語）	・第３学年定期考査において、昨年度と比べて達成率 40%以上 60%未満の生徒の割合が－13.7%と大幅に減少し、60%以上の生徒の割合が＋9.3%と確実に増加したことから、習熟度別授業を通して、知識を中心とした基礎的な内容の定着に加え、発展的な学習にも成果が見られる。一方で、達成率 40%未満の生徒の割合が＋4.5%であった。 ・令和６年度全国学力・学習状況調査（生徒質問調査第３学年）の英語の表現に関する項目では、「まとまった内容を発表する活動を実施した」については 89.1%と意識が高いが、「即興で自分の考えを伝え合う活動」については 72.6%にとどまり、習得した知識・技能を活かして、即興で考えを伝えることが課題の１つである。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、ペアワークなどのチーム学習を活用する。また、習熟度に合わせた導入でのスモールトークを実施する。 ・学習目標到達のための多量なインプットを提示し、発話等のアウトプットを毎時間充実させる。 ・単元の最後に行うパフォーマンステストの内容を適宜見直し、生徒にとって身近なテーマを取り上げて、話したり書いたりできるものに改善し、多く設定していく。 ・帯活動で短文英作文などを計画的に実施し、適時フィードバックを行うことで、正しい英文を書く経験を積ませ課題の改善を図る。 ・穴埋め、並べ替えなど、段階を追って作文させるワークシートを作成し、活用する。 ・ＰＤＣＡシートを活用し、その授業の目標を意識して取り組めるような授業デザインをする。 ・苦手意識がある生徒には基礎的な内容の更なる定着を目指し、個に応じた丁寧な指導が必要である。